

多高通信

第146号 平成29年9月28日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

第28回 多高祭!

9月1日・2日の2日間、第28回多高祭が行われました。2日目の一般公開では、時折小雨が降るあいにくの天候でしたが、約500名の方にお越しいただき、どんよりとした空模様を吹き飛ばす熱気と盛り上がりを見せました。



■多高祭実行委員長

3年4組 齋藤風帆(塩竈一中出身) 私が実行委員長として活動した3ヶ月、振り返ってみるとあつという間でした。準備をしていると多くの困難に直面しました。問題を解決する毎にまた新たな問題が見つかり、正直、その場の勢いで実行委員長になってしまったことを後悔したこともありましたが、はじめは全部一人でやろうとしていましたが、先生方・実行委員をはじめ多くの人に助けられて、多高祭を大成功させることができました。



軽音楽部ライブ & 吹奏楽部コンサート



初めて実行委員長のよう な大役を務めて、普通の学校生活では得られなかったものを多く得ることができました。本当に貴重な経験だったと思います。3ヶ月間本当に忙しか



合唱部の発表



今年の模擬店では顔出しパネルが大流行しました!

日本・ベラルーシ 友好派遣団

ベラルーシ共和国からの招待を受け、7月21日から8月4日までの15日間、本校生徒11名を含む宮城県・福島県の高校生50名がベラルーシ共和国を訪問しました。この活動は2011年から継続して行われており、今回で6年目となりますが、本校生徒が参加するのは初めてです。

滞在中の多くをベラルーシ共和国が運営する保養施設「ズプリョーノク」で過ごし、教育・文化プログラムのほか、健康プログラムに参加してきました。初めは緊張していた生徒達も英語や覚えたてのロシア語で現地の子ども達との交流を深めていきました。

ゲームストリーム社訪問



友好のタバココンサート



ナ口子湖



ズプリョーノクの入所式

山王地区・大代地区 防災キャンプ

防災キャンプ

8月4日に、本校1・2年生の防災委員7名と2年生有志生徒1名が、多賀城市山王地区公民館主催の「防災キャンプ」にボランティアとして参加しました。小学生を対象にしたこのキャンプには、11名の小学生が参加しました。本校生徒は、多賀城二中の生徒と一緒に小学生とグループをつくり、共に活動したり体験のサポートをしたりしました。参加者は「アルミ缶炊飯」や「防災O×クイズ」「ハザードマップから考えよう」「防災倉庫には何が入っているのか」「燃料電池自動車を知ろう」などの体験を通して、防災意識を高めていきました。



アルミ缶炊飯の準備



大代地区自主防災組織による防災資材組み立て体験

STAND UP SUMMIT 2017

8月7日・8日に、東京ビッグサイトで開催されたSTAND UP SUMMIT 2017に1年生3名が参加してきました。今年で4回目の開催となる「STAND UP SUMMIT」は、東日本大震災の復興支援イベントとして、2014年に初めて開催され、本校は2015年以降3回目の参加です。今年度は東北からは120名、熊本県から6名、東京及び海外から160名を超える多くの学生・生徒が参加し、「未来は自分たちで創っていく!」という強い意志のもと、次の時代を担う若者たちが、日本の情報発信の中心地である東京に集結し、これからの復興についての議論を重ね、発信していくイベントとなりました。

参加生徒の感想

私が創りたい未来は、すべての人が支援をよく受けられるというものです。例えば、ペットを飼っているから避難所に入れないということをなくすなど、これらを実現するために、やはり周りの人が助け合うことが大切だと思います。私は今まで他県の学生と会話しただけでなかったのですが、セッションだけでなく、学生交流会などでも様々な話を話せて新鮮でした。震災を経験した自分ももう忘れかけていたことを、東京の高校生はしっかり覚えていて、震災の経験者として、このことは風化させてはいけないと改めて思いました。



ハイスクール世界サミット

in 福島



8月8日から10日の3日間、福島県広野町で「ハイスクール世界サミット」が行われ、本校から4名の生徒が参加しました。今年は参加者が避難所生活を体験するプログラムが新たに取入れられ、東京電力福島

第一原発事故で一時避難した町民の経験を、次代を担う若者に伝え、被災の記憶を継承しながら防災意識の高揚を図りました。また、国内外の高校生らが未来のまちづくりなどをテーマに意見を交わしました。

■1年7組 木下有優(中田中出身)

私が今回のハイスクールサミットで最も強く感じたことは「一期一会」ということです。最初は話せる人ができるか不安でいっぱいでしたが、北海道から宮崎まで日本全国から集まってきた高校生の人たちはみな明るく話しかけてくれたり輪の中に入れてくれたりする人たちがばかりで、3日間の間にこんなにたくさんの友達ができたと初めてでした。



学生ファシリテーターを交えてのワークショップ

今回のサミットで、福島の復興はまだまだ進んでいないのだなと感じました。隣の県に住んでいるのにこんなに知らないことがあるのは驚いたし、同時に悲しくもなりました。これからの時代を生きっていく上で、もっと福島やそのほかの被災地の現状を受け止めていくことの大切さを実感しました。今回の経験や感じたことはきっとこれから先生生きていくのに大切なことばかりだと思つので、多くの人に今回の経験を伝えていこうと思います。

富山県高岡西高校 交流会

8月18日、富山県立高岡西高等学校の人間福祉コースの生徒19名をお迎えし、生徒交流会を行いました。まず、本校3年生の平塚亜美さんが「語り

部」として被災体験を話しました。また、互いの学校紹介、減災アクションカードゲームを行いました。その後、イオン多賀城店に移動し、本校生徒の案内でまち歩きを行いました。

■3年5組 平塚亜美

(鳴瀬未来中出身)

語り部として自分の震災についてお話しさせていただくのは初めてではないのですが、今回、同世代の高校生を相手にしても緊張しました。高岡西高校の皆さんはとても真剣に聞いてくださり、涙を流してくれた人もいました。話が終わった後に「ありがとう」という言葉をかけてくださる人もいました。

私は、いくら月日がたつても震災を忘れてほしくないと思っており、私の話を聞いて、震災に向き合ったり興味を持ってくれたりする人がいてくれるのはとても嬉しいです。またこのような機会があれば、一人でも多くの人に話したいと思っています。

■3年7組 渡邊昌太郎(高崎中出身)

減災アクションカードゲームや多賀城市内のまち歩きを行い、質問や会話が飛び交う大変有意義な時間となりました。特にまち歩きでは、私たちが体験した震災の経験や復興への道のり、そして今私たちが行っている防災活動などについて、高岡西高校の皆さんに伝えることができました。これらの活動を通じて、私は、災害に関する知識を深め、また、地元のみでなく、様々な地域での防災について考えるような視野の広さが身に付きました。



減災アクションカードゲーム

今回学んだことや経験したこと、防災学習に生かし、より一層防災に関する知識と行動力を向上させていきたいです。

本校の活動をブース展示

全国消防救助技術大会

全国和牛能力共進会

8月23日にグランディ21で開催された第46回全国消防救助技術大会と、9月7日から11日に夢メッセみやぎで開催された第11回全国和牛能力共進会・宮城大会で、本校の防災減災の取り組みをブ



平塚さんの被災体験講話

ース展示しました。参加された方々に本校防災委員が本校の取組を説明。多賀城市を襲った「都市型津波」の脅威と「津波波

全国和牛能力共進会での様子。海外の来場者に頑張って英語で説明しました。



高標示プレート」の設置活動等について、パネル等を通して話しました。また、全国和牛能力共進会では、「まち歩き」ボランティアも行い、多くの方に防災減災の大切さを訴えることができました。

「海猿」が来てくれました!

海上保安庁 水難事故防止教室

8月30日、本校の学校設定科目「くらしと安全」の授業の一環として「水難事故防止教室」が行われました。

授業は災害科学科2年生を対象に行われ、海や川に転落した場合の対処の仕方を学びました。はじめに、宮城海上保安部「巡視船くりこま」の藤



着衣した状態での背浮きの練習

田伸樹潜水士から、人体の比重の説明や重心によって浮力が変化することなど、科学的な解説を受けました。その後、衣服を着たままプールに入り、救助を待つ際に有効な背浮きや、誤って水に落ちてから、背浮き姿勢を取る練習、ペットボトルを持ちたり救命胴衣をつけたりした状態での浮力を確かめました。

生徒は命を守るための行動を会得し、水難事故に遭遇した場合の最善の方法を学びました。



本校卒業生の田伸潜水士と記念撮影

宮城大学

アカデミックインターシップ

9月3日、4日の両日、宮城大学アカデミックインターシップに本校2年生9名が参加しました。昨年

までは、宮城大学と多賀城高校の間で行われていた3つの学群、6つの講座に、県内外から参加した高校生とともに、講義やグループワーク、ディスカッションなど通して大学の学びを経験しました。

■2年6組 佐々木遥香(利府西中出身)

私は原玲子教授の「高校生から取り組める医療安全のためのトレーニング」という講義を受けました。医療事故の事例を通し、今後医療の世界とかわりをもつ私たちにできる危険予知について考える内容で、同じ世代の高校生同士が集まりお互い刺激を受けることができました。また、講義を通して、1人ではなく多くの人と意見を共有することの素晴らしさを改めて知ることができました。講義の事前課題として、医療現場が描かれた場面シートの中から自分が見つけ出した危険箇所を挙げ、それについての対策を考える課題が与えられていたのですが、私が見つけたもの以外に、グループでの意見交換や全体発表を聞いて、新しい発見が多くありました。医療現場は緊張した状態が続きますが、それぞれが気付いたことを伝え合える環境作りが医療事故を防ぐのではないかと思います。

弓道部 インターハイ報告

■佐藤 拓都(2年1組 多賀城中出身)



今回のインターハイは、公式練習を含め練習段階ではほとんど外すことなく、思い通りの射ができていたため、自信を持った状態で本番に臨むことができました。予選は4本中3本的中させて通過し、準決勝は4本すべてを的中させて無事決勝に進出しました。しかし、決勝戦では1本目で敗退という結果に終わってしまい、優勝という目標を達成することはできませんでした。

実際に試合に出場してみて、全国レベルの試合は普段感じないようなほんの些細な気持ちの乱れが生じてしまい、それが大きく射に現れてくるものと学びました。また、観客席から試合を観戦して、結果を出した選手たちが集まってくる中で実力を発揮できたのはわずかな人数で、全国大会の緊張感の高さやプレッシャーを強く感じました。

今後は、新人戦や来年の高総体で再び全国大会に出場するチャンスがあるので、今回の経験や悔しさを糧に全国大会で優勝できるように、一射一射を大切に練習に取り組みでいきたいと思っています。